

大阪医療センターをご利用くださる先生方へ

Osaka National Hospital



独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターニュース

News

No.68

令和2年4月

このニュースは、年4回、
大阪医療センターの最新情報をお届けいたします。
詳しいお問い合わせは
地域医療連携室までお寄せください。



目次

地域医療連携室より

- ・ 講演会のご案内 2
- ・ 新任及び退職医師のお知らせ 3

病院のトピックス

- ・ 三木秀宣整形外科科長 就任のご挨拶 4
- ・ 第49回 法円坂地域医療フォーラム 5
- ・ 当院のドクターカーが新しくなりました 7
- ・ 手術件数と患者紹介No. 1 !
頼られる医療の実施 10
- ・ 脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内 12
- ・ NHO PRESS ~国立病院機構通信~について 12
- ・ がん相談支援センターのご案内 13

独立行政法人 国立病院機構 **大阪医療センター**

地域医療連携室 令和2年4月発行 68号

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14

TEL.06-6946-3516

☎ 0120-694-635

FAX.06-6946-3517

[HP] <https://osaka.hosp.go.jp>

[E-mail] 408-comonh@mail.hosp.go.jp

～ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの理念～

私たち、独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの職員は、

- 1、医療に係わるあらゆる人々の人権を尊重します。
- 2、透明性と質の高い医療を、分け隔て無く情熱をもって提供します。
- 3、医学の発展に貢献するとともに良き医療人の育成に努めます。
- 4、常に向上心をもって職務に専念し、健全な病院運営に寄与します。

～理念に基づいた病院の基本方針～

—— 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの診療・研究・教育方針 ——

1) 政策医療の推進

- ・ 基幹医療施設としての「がん」「心・大血管疾患」「脳卒中」「糖尿病」等、高度総合医療の実施
- ・ HIV/AIDS先端医療の推進（近畿ブロック拠点病院）
- ・ 3次救急医療と災害医療の推進（西日本災害医療センター）
- ・ 専門医療と総合診療の充実
- ・ 医療機関の機能分担の推進と地域医療への貢献（地域医療支援病院）



2) 高度先進医療への貢献

- ・ 技術開発：先進的医療の基盤となる技術の研究開発とその臨床応用の確立
- ・ 臨床研究：病因の解明、診療治療法の開発等の臨床並びにその基礎となる研究の実施
- ・ 臨床試験の推進：治験を含む臨床試験の円滑な実施とその管理・支援

3) レベルの高い医療人を育成

- ・ 卒前教育：医療系教育施設と連携した教育活動と実習生の受入
- ・ 卒後研修：初期臨床研修医及び後期臨床研修医（専修医）等、卒後の医療技術者の育成
- ・ 専門職の育成

4) 情報開示と情報発信

- ・ 透明性を保った情報の開示・発信

講演会のご案内

開催日時	件名	内容	対象者

開催場所 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階講堂 **アクセス** 地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅①号出口すぐ

問合せ 地域医療連携室（電話：06-6946-3516）

新任及び退職医師のお知らせ

新任医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
R2.4.1	入院診療部長	三木 秀宣	昇任
R2.4.1	脳卒中内科医長	山本 司郎	昇任
R2.4.1	消化器内科医長	榊原 祐子	昇任
R2.4.1	循環器内科医長	安部 晴彦	昇任
R2.4.1	外科医長	三宅 正和	昇任
R2.4.1	婦人科医長	飛梅 孝子	昇任
R2.4.1	臨床検査科医長	森 清	昇任
R2.4.1	腎臓内科医師	下村 明弘	採用
R2.4.1	精神科医師	百崎 詩子	採用
R2.4.1	消化器内科医師	山本 俊祐	採用
R2.4.1	循環器内科医師	尾崎 立尚	採用
R2.4.1	呼吸器外科医師	土井 貴司	採用
R2.4.1	外科医師(肝胆臓)	酒井 健司	採用
R2.4.1	整形外科医師	北田 誠	採用
R2.4.1	整形外科医師	中井 隆彰	採用
R2.4.1	泌尿器科医師	野々村大地	採用
R2.4.1	泌尿器科医師	岡 利樹	採用
R2.4.1	眼科医師	雲井 美帆	採用
R2.4.1	眼科医師	松岡 孝典	採用
R2.4.1	耳鼻咽喉科医師	津田 武	採用
R2.4.1	放射線診断科医師	藤原 拓也	採用
R2.4.1	麻酔科医師	森 裕美	採用
R2.4.1	麻酔科医師	山形 晃太	採用
R2.4.1	救命救急センター医師	眞木 良祐	採用
R2.4.1	消化器内科医師	山本 俊祐	採用
R2.4.1	腎臓内科医師	下村 明弘	採用
R2.4.1	脳卒中内科医師	木村 陽子	採用
R2.4.1	泌尿器科医師	片山 欽三	採用
R2.4.1	口腔外科医師	矢谷 実英	採用
R2.4.1	皮膚科医師	小林 佑佳	採用
R2.4.1	専攻医(糖尿病内科)	岩崎莉佳子	採用
R2.4.1	専攻医(糖尿病内科)	花岡 希	採用
R2.4.1	専攻医(腎臓内科)	別所 紗妃	採用
R2.4.1	専攻医(腎臓内科)	東 優希	採用
R2.4.1	専攻医(腎臓内科)	野津 翔輝	採用
R2.4.1	専攻医(腎臓内科)	窪田 卓也	採用
R2.4.1	専攻医(腎臓内科)	小堀 愛美	採用
R2.4.1	専攻医(脳卒中内科)	櫻井 玲	採用
R2.4.1	専攻医(脳卒中内科)	井出裕季子	採用
R2.4.1	専攻医(呼吸器内科)	恵比須梨華	採用
R2.4.1	専攻医(消化器内科)	別所 宏紀	採用
R2.4.1	専攻医(消化器内科)	西村 佑子	採用
R2.4.1	専攻医(消化器内科)	津室 悠	採用
R2.4.1	専攻医(循環器内科)	福島 貴嗣	採用
R2.4.1	専攻医(循環器内科)	堀内 恒平	採用
R2.4.1	専攻医(循環器内科)	坂本 麻衣	採用
R2.4.1	専攻医(循環器内科)	井戸 允清	採用
R2.4.1	専攻医(循環器内科)	鷗飼 一穂	採用
R2.4.1	専攻医(循環器内科)	山根 治野	採用
R2.4.1	専攻医(外科)	楠 誓子	採用
R2.4.1	専攻医(外科)	植田 隆太	採用
R2.4.1	専攻医(外科)	今村 沙弓	採用
R2.4.1	専攻医(外科)	瀬戸 郁美	採用
R2.4.1	専攻医(整形外科)	鈴木 りえ	採用
R2.4.1	専攻医(脳神経外科)	澤田 遥奈	採用
R2.4.1	専攻医(脳神経外科)	瀧 毅伊	採用
R2.4.1	専攻医(心臓血管外科)	山口 洋太	採用
R2.4.1	専攻医(皮膚科)	文 省太	採用
R2.4.1	専攻医(皮膚科)	出野りか子	採用
R2.4.1	専攻医(形成外科)	田中 弘之	採用
R2.4.1	専攻医(形成外科)	上月 志乃	採用
R2.4.1	専攻医(泌尿器科)	松村 聡一	採用
R2.4.1	専攻医(眼科)	河 共美	採用
R2.4.1	専攻医(眼科)	部坂 優子	採用
R2.4.1	専攻医(放射線診断科)	濱口 恭子	採用
R2.4.1	専攻医(放射線診断科)	矢野 弘樹	採用
R2.4.1	専攻医(麻酔科)	原 恵理子	採用
R2.4.1	専攻医(救命救急センター)	河本 昌雄	採用

退職医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
R2.3.31	入院診療部長	上田 孝文	退職
R2.3.31	泌尿器科医長	鄭 則秀	退職
R2.3.31	眼科医長	數尾久美子	退職
R2.3.31	救命救急センター医長	岩佐 信孝	退職
R2.3.31	腎臓内科医師	倭 成史	退職
R2.3.31	脳卒中内科医師	河野 智之	退職
R2.3.31	精神科医師	水田 直樹	退職
R2.3.31	消化器内科医師	岩崎 哲也	退職
R2.3.31	循環器内科医師	篠内 和也	退職
R2.3.31	耳鼻咽喉科医師	武田 和也	退職
R2.3.31	放射線診断科医師	坪山 尚寛	退職
R2.3.31	脳卒中内科医師	安藤 大祐	退職
R2.3.31	脳卒中内科医師	小村 江美	退職
R2.3.31	泌尿器科医師	木下 竜弥	退職
R2.3.31	産婦人科医師	寺田亜希子	退職
R2.3.31	専攻医(糖尿病内科)	益田 貴史	退職
R2.3.31	専攻医(糖尿病内科)	西村英里香	退職
R2.3.31	専攻医(腎臓内科)	茂木 孝友	退職
R2.3.31	専攻医(腎臓内科)	矢島 綾子	退職
R2.3.31	専攻医(腎臓内科)	小泉信太郎	退職
R2.3.31	専攻医(脳卒中内科)	池上 剛史	退職
R2.3.31	専攻医(消化器内科)	藤井 祥史	退職
R2.3.31	専攻医(消化器内科)	宮崎 哲郎	退職
R2.3.31	専攻医(消化器内科)	早田菜保子	退職
R2.3.31	専攻医(循環器内科)	飯田 吉則	退職
R2.3.31	専攻医(循環器内科)	鳥山智恵子	退職
R2.3.31	専攻医(循環器内科)	家原 卓史	退職
R2.3.31	専攻医(循環器内科)	佐々木 駿	退職
R2.3.31	専攻医(循環器内科)	上田 泰大	退職
R2.3.31	専攻医(外科)	萩 美里	退職
R2.3.31	専攻医(外科)	加藤 伸弥	退職
R2.3.31	専攻医(外科)	佐藤 広陸	退職
R2.3.31	専攻医(整形外科)	高見 晴奈	退職
R2.3.31	専攻医(脳神経外科)	館 哲郎	退職
R2.3.31	専攻医(心臓血管外科)	村上 貴志	退職
R2.3.31	専攻医(皮膚科)	益田知可子	退職
R2.3.31	専攻医(形成外科)	白石万紀子	退職
R2.3.31	専攻医(泌尿器科)	山本 哲也	退職
R2.3.31	専攻医(産婦人科)	越田裕一郎	退職
R2.3.31	専攻医(眼科)	横山 洵子	退職
R2.3.31	専攻医(放射線診断科)	二宮 啓輔	退職
R2.3.31	専攻医(放射線診断科)	本田 亨	退職
R2.3.31	専攻医(麻酔科)	谷口 美奈	退職
R2.3.31	専攻医(救命救急センター)	関 俊弘	退職
R2.3.31	専攻医(救命救急センター)	國井 繭子	退職



整形外科科長 就任のご挨拶

平素より病々連携、病診連携で大変お世話になっております。

この度、上田部長のご退任により、整形外科科長・診療部長を引き継がせていただくことになりました。

私は、平成18年に大阪大学から大阪医療センターに赴任し、股関節外科のチーフとして勤務してきました。コンピュータ支援外科が専門領域で、コンピュータナビゲーションを用いた人工股関節置換術を取り入れ、安全かつ正確な手術により患者さんのADLをより良く回復できるようにと頑張ってきましたが、今後は整形外科全体を統括する立場となり、当院整形外科として安全安心な医療を届けられるように注力していく所存でございます。

当科には股関節外科、膝関節外科、足の外科、小児整形外科、脊椎外科、骨軟部腫瘍外科があり、それぞれ先進的な取り組みをしてきており、その臨床成績は国内でも有数となっております。ただ、昨今の整形外科を取り巻く状況は、ご存じのように社会の超高齢化により変化してきております。いわゆるロコモティブシンドロームや介護を含めた包括的な生活への対応です。現状ではやはり個々の医療資源を効率的に分担使用して、いかに地域の先生方とスムーズな連携をしていけるかが重要と思われまます。今まで以上にご協力の程よろしくお願い申し上げます。

最後に、現在新型肺炎により大変な時期でございますが、この記事が発行される頃にはいくらか終息に向かっていることを祈りつつ、ご挨拶とさせていただきます。

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター
整形外科科長 三木 秀宣

第49回 法円坂地域医療フォーラム

国立病院機構 大阪医療センター 臨床腫瘍科長 久田原 郁夫

令和2年2月8日（土）午後3時から救急災害医療棟 講堂にて、第49回法円坂地域医療フォーラムを開催いたしました。テーマは『緩和ケア最新トピックス～人生会議を考える～』で院内外向けにACP（アドバンス ケア プランニング）＝人生会議に関する講演とシンポジウムを行いました。地域医療推進部長 巽先生、院長 是恒先生の開会挨拶に引き続き、第1部は、緩和ケア内科 相木先生より「How To 人生会議 ～エビデンスを実臨床に生かすために」というタイトルでACPの背景、定義さらにACPのコツについてわかりやすく解説がなされました。特にACPの定義として、患者自身の病状と予後の理解のみならず以後の療養に対する希望さらに生活面での気がかりや意向が含まれるという点で、医療行為に対する事前意向であるAD（アドバンス ディレクティブ）やDNARとの違いが明白に提示されました。

10分の休憩ののち、第2部は、シンポジウム形式で3人のパネリスト（当院ソーシャルワーカー 関根さん、市内で積極的に在宅医療を行っておられる西原先生、当院ケアサポートチーム相木先

生）により実際にACPを行った進行がん症例の提示がありました。最初に関根さんが患者さんとの面談を通じての意見とコメント、さらに相木先生が担当だった訪問看護師からのコメント提示、西原先生が在宅診療の現場報告という形で議論を進めました。当初は病状から在宅への移行が困難で

第49回 法円坂 地域医療フォーラム

テーマ 『緩和ケア最新トピックス
～人生会議を考える～』

日時：令和2年2月8日（土） 15:00～17:30
 場所：大阪医療センター 緊急災害医療棟3階 講堂
 大阪市中央区法円坂2-1-14 TEL 06-6942-1331
 主催：「法円坂地域医療フォーラム」運営協議会

【司会】 国立病院機構 大阪医療センター 地域医療推進部長 巽 啓司

1.開会挨拶 国立病院機構 大阪医療センター 院長 是恒 之宏

2.講演

第1部
 【座長】 国立病院機構 大阪医療センター 臨床腫瘍科 科長 久田原郁夫
 『How To人生会議 ～エビデンスを実臨床に活かすために～』
 国立病院機構 大阪医療センター 緩和ケア内科 医師 相木 佐代

第2部
 【座長】 国立病院機構 大阪医療センター 臨床腫瘍科 科長 久田原郁夫
 『地域で活かす人生会議 ～症例を通して考える～』
 ～症例提示～
 『独居でも、自分らしく生きるために』
 ～シンポジウム～
 『その人らしさを支えるために、病診連携で出来ることは』
 医療法人みんと会 きむ医療連携クリニック 医師 西原 承浩
 国立病院機構 大阪医療センター 医療ソーシャルワーカー 関根知嘉子
 国立病院機構 大阪医療センター 緩和ケア内科 医師 相木 佐代

3.閉会挨拶 国立病院機構 大阪医療センター 統括診療部長 平尾 素宏

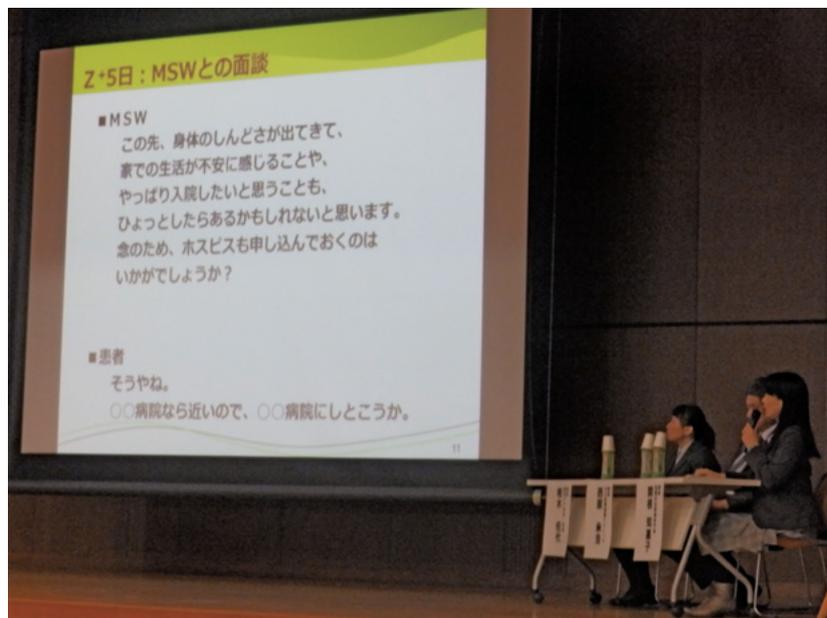
・参加費無料 ・当日受付可 ・大阪府医師会生涯教育研修指定申請中
 申し込み・お問い合わせ先：大阪医療センター地域医療推進部 安楽 06-6946-3516



あろうと判断されたケースが、本人、家族との面談を重ねて最終的に本人の意向が達成された事例です。家族の意向は統一されてはいたものの、独居という生活環境、その後の心境の変化、在宅医療スタッフの対応内容を検証し多面的に討議を行いました。在宅医、訪問看護師、ヘルパーおよびケアマネージャーの総合的なバックアップのもとに上手くいったプロセスを振り返りました。本人の強い意向に周囲が動かされ求める療養が達成できたという事実は大きいと思います。フロアからは、一般的なこととして財産分与など没後の法的な部分の問題点が指摘されました。フォーラムは予定通り終了し、最後に統括診療部長 平尾先生より閉会挨拶がなされました。参加者は院外38名、院内4名の計42名でした。

ACPIは厚生労働省が超高齢化社会を迎えていく中で、患者さん自身の最期に向けて家族や医療従事者を交えて意思決定を支援するプロセスと定義し推進を促しています。またがん拠点病院においてはACPを行うのは必須条件となっており当院でもケアサポートチームを中心にワーキンググループを立ち上げ具体的な実践方法について議論を行ってきました。現在ACP自体の周知があまりなされておらず、実践においては各施設が方法の模索段階にあります。そのような意味でこのセミナーはACPに関わる医療従事者のみならず参加者全ての方々にとって有意義であったと思います。

当日、会場の準備や受付、進行、あとかたづけに携わったスタッフの方々ありがとうございました。



当院のドクターカーが新しくなりました



国立病院機構 大阪医療センター 企画課 契約係



「バツェンバークマーキング」という模様であり、今後の日本の救急車両のガイドラインに沿って作成したものです。後ろは「シェブロンマーキング」で、これらの模様は蛍光色です。下の方にあるのは車のヘッドライトの高さに合わせているためです。実際、夜にフラッシュ撮影すると、とても目立つ模様で、車が止まっていることがすぐに分かります。残念ながら日本で初の導入とはいきませんでした。近畿地方では初導入であるはず。学会発表のチャンス……かも？

3月26日、当院に新しいドクターカーがやってきました。

今回の購入のきっかけとなったのは、大阪府への寄附です。寄附された方が「救急車の購入に使用してください」と希望されたことから、大阪府から当院へ声がかかりました。これに「是非！」と声を上げたのが昨年2月。購入までの長い道のりが始まりました。

購入にあたり、まずは医療機器整備委員会にて了解を得ました。続いては機構本部からの同意が必要となります。契約係から申請をし、同意を得るまでの間は、大西救命救急センター診療部長監修の下、仕様書を作成しました。大西部長は災害医療にも携わっており、我々は大西部長の深い知識・熱い思いにふれながらも、数々のこだわりを形にできるのか、不安に思いつつの仕様書作成でした。

そして、同意を得た後は購入手続きとなります。7月に入札を行い、落札業者のからの一言「これが完成したら車業界がひっくり返るぞー」、ホンマかいなと疑いつつ待つこと数ヶ月。デザイン案を見て驚き、中間報告を見て驚き、とにかく驚きっぱなしの半年でしたが、理由は後ほど……。

デザインは運営企画会議で確認の上、承認。写真を見て、派手な赤白の模様に驚かれると思いますが、これはヨーロッパの緊急車両で使われる



納車当日は臨床工学技士の手助けの下、古いドクターカーから新しいドクターカーへ医療機器の移動をさせました。



新しいドクターカーは今と同じトヨタの救急車ですが、最新モデルをベースにあちこち改造されています。カーナビやドラレコ、ETCは当たり前。電動カーテンに衛星電話、テレビ（しかも2つ!）、おまけにWi-Fiルーター (!!)と便利でビックリな機能がてんこ盛りです。さらに、車の左側からタープ（屋根）を伸ばせば雨の日の屋外ミーティングも安心です。



その他、ストレッチャーを左右に動かしてスペース確保をできたり、医療機器の積載のために最新の技術を使っていたりと超高性能な車です。まだまだ紹介しきれないのですが、これだけの機能があるのは災害時にDMAT隊員が使うためでもあります。仕様書を作ったときや納入業者と打ち合わせをしたとき、1つ1つの機能について

「〇〇の場合に××として使うため、この機能があることにより～」と、理由や具体的な想定を伝える大西部長の真剣な眼差しがとても印象的であり、なかなか現場に出ることのない事務員として、非常に勉強になる瞬間でした。災害現場でも活躍できることは間違いありません。（活躍する場は少ない方がよいのですが……）



さて、機能山盛りの新ドクターカーですが、4月中に機能確認の場を設けることが予定されています（日程未定）。とはいえ、まずは通常の転院搬送でスムーズに使用できなければならないため、ストレッチャー搬送を担当する職員において、より安全な転院搬送のため、ストレッチャーの動かし方などを練習しました。



なお、古いドクターカーは (株)メディカルトランスポートへ売却することとなり、納車と同時に別れとなりました。国産初の救急車として売り出されたモデルで、今町中を走っている救急車のお母さんの存在です。24年間という長い間、大阪医療センターのドクターカーとして働いてくれました。今ではとても希少なモデルであるため、写真を撮らせてほしいという依頼もたまにあるという人気者なのです。売却後は工業遺産として保存されると共に、ドラマ等での時代考証にも使われるそうです。第2の人生（車生？）を謳歌してもらえればと思います。

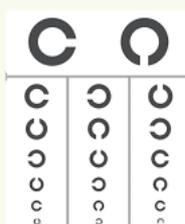
長い間お疲れ様！ 今までありがとう！



長い間お疲れ様！ 今までありがとう！

手術件数と患者紹介No.1! 頼られる医療の実施

インタビュー 外来診療部長・眼科科長 大鳥 安正 先生
インタビュアー 外来看護師長 武部 美紀



今日は大阪医療センター眼科科長であり、
外来診療部長の大鳥安正先生にお話をお聞きします。

質問：先生の今のやりがいは何ですか？

大鳥：長い間この状況でやってきたし、今は自分がやりたいことが出ています。学会や講演などの依頼を受けて内容を考えるのも楽しいです。「あの講演良かったですよ！」という評価や、難しい手術の時間が短縮出来た時も「自分もまだまだ成長できる」と実感できます。入院患者さんに直接会いに行き色々な話を聞くのも楽しいです。そして治療が思うようにうまくいかない患者さんには特に丁寧に関わるようにしています。この病院のファンを一人でも多く作ることが大事だと思っています。

質問：いつも遅くまで外来、病棟でお姿を拝見します。働き方改革ですが休めていますか？

大鳥：「働き方改革」自分にとっては良い制度かな。割り切って休みをとるのも良いと思っています。休めと言われないと休めない体質かな？休みの日には、ギターを弾いたり映画を観に行ったり読書をして過ごします。でもやっぱり“患者さんを診る”のが好きなんですね。これがストレス発散なのかも。



緑内障といえば“大阪医療センター” と言われるまでに

質問：眼科は手術件数や紹介患者が多く、地域からの救急患者を断られず緊急手術も多いですね。

大鳥：大阪医療センターに赴任して12年が過ぎました。当初は網膜硝子体疾患の紹介が多い病院だったのですが、私が赴任してからは緑内障で大阪医療センターを盛り上げたいと思っていました。そのために地域の紹介患者をいかに増やすかを考えました。外来に来られる患者さんには、丁寧な説明を心掛け、初対面での印象を良くすることが大事です。

そして紹介元への返書は、素早く返します。受け取る側に興味を持って頂けるような写真や、データ、コメントを載せ“1枚に思いを込めて”書きます。

研修医にも同じように教育しているので当院を離れても上手に返書を書きます。そして地域の先生から緊急患者の受け入れ依頼があった場合は断りません。緊急対応が必要な患者さんを前に地域の先生も困っておられるのが目に浮かぶので、必ずお受けしています。困ったときに助けられたら、その人を信頼しますよね。病診連携において大事なのは信頼関係を築くことと、お互いの医療レベルを向上させることだと思っています。患者さんをご紹介いただいた先生方や院内スタッフのご協力のお陰で緑内障手術件数が大阪府下No.1になったのだと思います。



(インタビュアーより)

最後に：先生達の想いに添えるよう外来看護の質の向上に努めて参ります。
ご指導よろしくお願ひいたします。



脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内

当院では、主に救急隊からの脳卒中・循環器疾患による患者搬送を受け入れできるよう、脳卒中・循環器ホットラインを設置しておりますが、本ホットラインは救急隊からの要請に限定したのではなく、広く各医療機関様からのご連絡も24時間お受けできる体制を取っています。

貴院かかりつけ患者様あるいは救急搬送された患者様で、脳卒中・心臓・大血管疾患の急変等が起こった際の搬送先として、当院のホットラインをぜひご活用ください。



独立行政法人 国立病院機構
大阪医療センター

〒540-0006 大阪府大阪市中央区法円坂2-1-14 TEL: 06-6942-1331 (代)

循環器ホットライン

06-6946-3544

循環器疾患24時間対応します。

脳卒中ホットライン

06-6946-3543

脳血管疾患24時間対応します。

医師及び消防局救急隊からの電話に限ります。

NHO PRESS ~国立病院機構通信~について

大阪医療センターは、国立病院機構（NHO: National Hospital Organization）という141の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS~国立病院機構通信~』を発行しています。

ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、ぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。



QRコード



NHO PRESS

検索

大阪医療センター

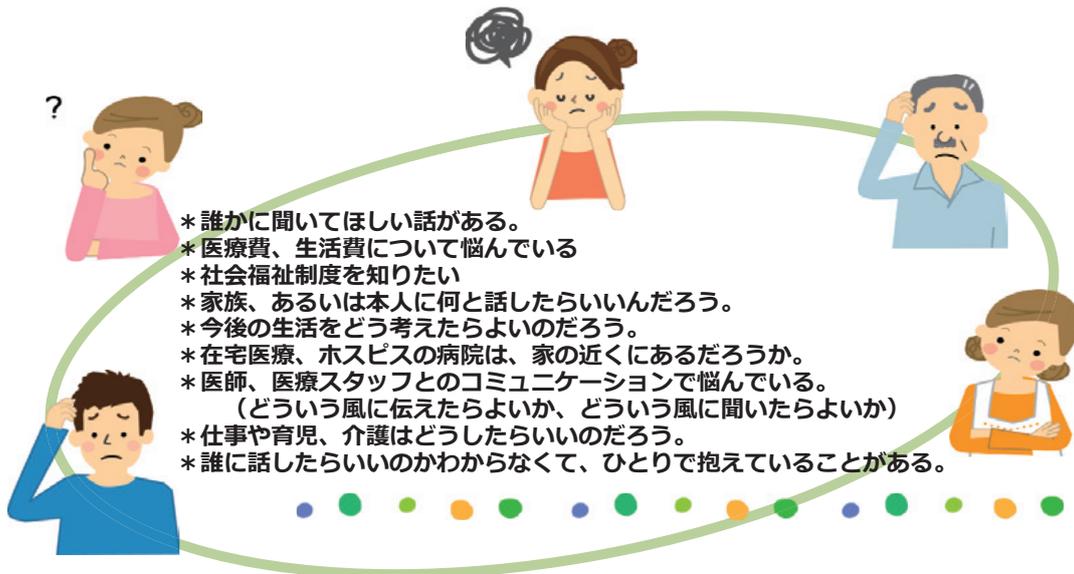
がん相談支援センター

のご案内



患者さん・ご家族の皆さまが、治療を受けながら考えておられること、生活の中で抱えておられるお気持ち、などお話を聞かせていただくことにより、悩みやお気持ちの整理をお手伝いし、解決の糸口を一緒に考えます。
お気軽にご利用ください。

相談料は無料で、相談内容における個人情報厳守いたします。
* ご入院中の方は、ご希望により、病室までお伺いいたします。



相談にあたっては、患者さんやご家族のお考えやお気持ちを尊重し、できるだけみなさまご自身で問題の解決を図れるよう支援をいたします。

■ 大阪医療センター・がん相談支援センター ■

☎ 06-6942-1331 (代表)

[月曜日～金曜日] 9:00～16:00

外来休診日はお休みです

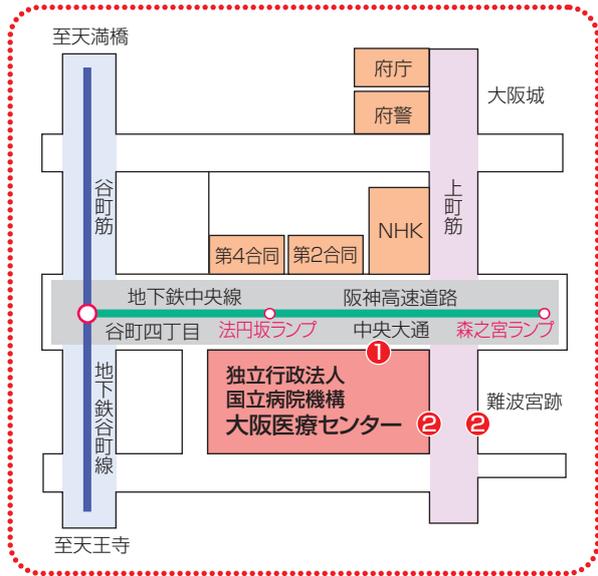
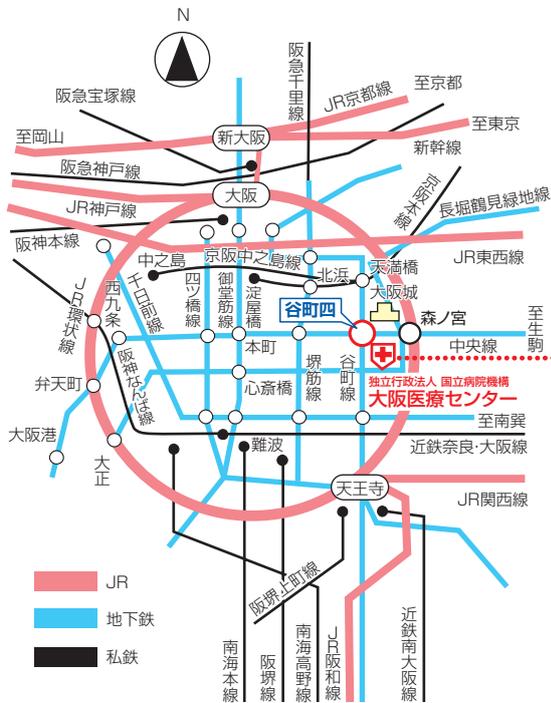
相談対応：看護師・医療ソーシャルワーカー



がん看護相談も
やっています



交通のご案内



① 地下鉄「谷町4丁目」11番出口 ② 市バス「国立病院大阪医療センター」

■地下鉄

谷町線・中央線「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■J R

大阪環状線「森ノ宮」駅下車、地下鉄中央線乗り換え「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■バス

市バス「国立病院大阪医療センター」下車

■マイカー・タクシー

・阪神高速 13号 東大阪線

▼環状線経由の場合

「法円坂」出口 上町筋を右折すぐ

▼東大阪方面からの場合

「森之宮」出口 中央大通り直進、上町筋を左折すぐ

・上町筋と中央大通りの交差点の南西角

・お車の出入口は上町筋です。